



会報 第12号

発行所 栃木県立学校会
編集所 栃木県農業高等学校
印刷所 栃木県農業高等学校
印刷所 栃木県農業高等学校

朝のラジオを聴いて



昭和四年卒
同窓会長

大倉 一郎

私は三年前でしたか、急に視力が衰え、新聞の活字さえ見えなくなりました。すぐに入院検査を受けました結果、「糖尿病による合併症で、急性の眼底出血ですね」医師からの宣告でした。

あれから今日まで、治療一筋に専念している私ですから、早寝を信条としています。したがってどうしても、朝早く目をさします。

午前五時からの一時間「今日も元気で」のラジオをきくのが、楽しみとなっている今日この頃です。

思い出の歌、心の歌が流れます。父に連れられて、釣り糸をたれたうらの小川、日光山を眺めながら、一緒に落葉さらいをした母の姿、少年期の友達の顔が思い出されます。

「ふるさと通信」では、全国各地から寄せられる、くらしの話や、生産の喜びがきかれます。

しかし、私が一番期待しているのは、忍耐と努力によって、苦難を乗り越えた、人々による人生読本のお話です。私は真農時代、陸上競技の選手でした。憧れと尊敬していたのは、早稲田大学の織田幹雄選手でした。オリンピックで織田さんに続いて、金メダル獲得の南部忠平さんの放送があり、その中で織田さんの思い出を聴くことができました。

織田さんは、どんなに疲れていても、練習が終わると直ぐにスパイクの手入れをされる。練習日記もつけます。誰より

本校に赴任して



学校長

龍澤 宏行

昨年四月の定期異動により矢板高等学校長から本校の校長として赴任いたしました。

本校は名実共に長い歴史と輝かしい伝統を有する農業教育の名門校です。このような立派な学校に赴任できましたことは、誠に名誉なことであると同時に、その職責の重大さに身の引きしめる思いです。

さらに創立八十周年の記念すべき年に赴任できましたことも大へん有難く感謝いたしております。

顧みますと本校は明治後期の政府の殖産富国政策と相俟て、芳賀地方の農業振興の中核者の養成という大きな要望と期待を担って、明治四一年四月に創立いたしました。

開校時六人の生徒で発足した学校も八十年の間に幾多の変遷を経て、現在は農学科・園芸科・畜産科・食品化学科・各一クラス、生活科二クラス計一学年六クラス募集定員二三〇名、全校で一八クラス、六九〇名の生徒を有する学校となり、校地も校舎敷地九ヘクタール、農場敷地一六ヘクタール、山林一ヘクタール合計三六ヘクタールを有し、施設設備も充実した学校へと発展してまいりました。

この卒業生も一萬二千名に達し、これらの卒業生が地域社会はもとより、国や県のそれぞれ立場で、産業、経済、政治の分野においてリーダーとして活躍をされておられることは誠に同慶の至りであります。

今日ある感謝し最善をつくす 今日一日を大切に、感謝報恩の生活を続けている私であります。

現在本校に学んでいる生徒にとりまして、誇りであると同時に大きな励みになることであり、感謝いたしております。

今回創立八十周年に当たり同窓生の皆様から物心両面にわたり多大のご協力を戴き有難うございました。厚く御礼申し上げます。お陰様で昨年十一月十三日に多数のご来賓、関係者出席の上盛大に記念式典を挙行できました。

また記念事業の一つとして同窓会館の北側に推定樹令八十年の「かつら」の木を植えました。「かつら」は古来「貴い木」として珍重され、樹高三十メートルに達する落葉喬木です。大地にしっかりと根をおろし、大空高く聳え立つ雄姿。ここに八十年の歴史をもった本校卒業生の姿を見るように逞しい人間に成長してもらいたいという願いをこめて、本校のシンボルツリーとして植えました。

その他記念事業として本館西側斜面（記念園）の整備、記念誌及び同窓会名簿の発行を行いました。

現在臨教審の答申にみられますように国をあげて教育改革が叫ばれ、本県においても「とちぎ新時代創造計画」の一つとして高等学校の学校学料の整備が進められております。本校でも二一世紀にむけて将来とも地域に根ざした地域と共に歩む学校の姿を求めて研究を行っております。

今後ともよろしくご指導ご協力下さいますようお願い申し上げます。昭和六十二年十一月吉日

田上昇先生胸像建立実行委員会

田上昇先生のご功績を讃えて

編集員 一同

本校の今日ある発展をもたらした原動力となつて幾多の困難な道を拓き歩んでこられた前同窓会長の田上昇先生には昭和六十二年十一月吉日、別掲碑文の通り顕彰されました。改めて先生のご功績に対し敬意を表し今後益々のご健勝でありますよう衷心よりお祈りいたします。



碑文

田上昇先生は昭和十七年より村議会議員六年間、昭和二十四年より中村地区住民の衆望を担い中村村長として五年七ヶ月、郷土のため献身的な努力を重ね、町村合併に当っては村長としてその実現を図りました。真岡市合併と共に助役八年、県議会議員十四年余の長きにわたる本市の基礎づくりに貢献され、真岡市今日の繁栄は先生のためざる努力と高邁な識見及び政治手腕に負うところ大であります。

一方勝田口土地改良区理事長として組織充実に努め、栃木・茨城両県に跨る広大な穀倉地帯の用水の一元化と、基盤整備事業を完成に至らしめました。その功績により市長表彰、知事表彰、全国都道府県議会議員会長表彰、農林水産大臣表彰並びに藍綬褒章、勲四等瑞宝章叙勲の栄誉に浴されました。この胸像は、氏の偉大な功績を称え、永く後世に伝えるために、中村地区住民並びに関係各位によって贈られたものであります。

雑 感

昭和三十三年卒大内支部
常任理事 古橋 修一

此の度の真農高創立八十周年記念式典におめでとうございませう。私も実行委員の一員として式典には参加したかったのですが、組内に不幸が来てしまい参加できず誠に残念に思っております。後で役員の方々に立派な式典が挙行されたとお聞きし大変喜んでおりました。記念誌をいただき目を通したところ、各界で活躍する諸先輩、後輩諸氏の力強い姿が記載されており敬意を表するところであります。

特に衆議院議員の広瀬秀吉先生におかれましては、年に一度の同窓会総会には中央にあつてお忙しいおからだが、毎年参加をいただいております。これも母校を思う以外何物でもないと思ひます。又素晴らしい真農高創刊に、菊地恒三郎市長も頑張っておられる様子。

農協界にあっては大内農協組合長、県共済連会長としてリーダーシップを発揮していらっしゃる小坂利雄氏、厳しい農業状況の中でこれ又素晴らしい農協自給出来なければと云つてい

た人達が、政府の手先か何か知らないが、農産物の自由化を盛んに説き、藤原弘達（この際先生はつけない）に云わせると、くたばれ農協、竹村健一に云わせると「今世界の食料はありあまつちよる、インドやアフリカで餓死しているのはお金がないからで物が買えへん、日本のように金があれば食料なんかいくらでも買えるさかえ心配ない。今日日本の米はアメリカの何倍しちよる」と云う安堵感を感じさせ

通せたのか、確たるものは思ひ当たらないが、それは真農高精神ではなかったか……



日本の農業はこれで良いのか
昭和三十三年卒
農業士 平野 耕 紹

今は飽食の時代、食べたい物が好きなだけ腹いっぱい食べることが出来るなんて、こんな素晴らしい事はない。今ではこれに当りまえのように思はれていて、私達の卒業の頃の三十年前には、それが出来なかつた。麦飯と漬物だけで腹いっぱい食べられれば幸せ

これからの日本の経済は工業を中心として伸びて行くとしても、我々農家だけが、そのついでを負うのは、がまん出来ない。

農業の大切さは、農産物の生産のみならず、人間が生きる行為の自然環境の保全、人間の心のふる里である農村社会、これらを継承発展させる事も大切な事である。

新しい生活がスタートしました。クラス対抗のバレーボール、ソフトボール大会などある度朝早く、そして放課後の落ちるまで練習したあの頃、皆一人一人が生きたとした姿で活気にあふれ充実した毎日でした。弁池までのマラソン大会の時など地下たびを

抑留から三十五年

昭和十四年卒
宇都宮河内支部長
青柳 宗内



私が母校からいただいたものは勤労と報徳の精神であつたと思ひます。それが死線を越えて生きられたと確信しております。春は大野原の開墾夏はちよ麻の生産そして冬は報徳寮での宿泊研修でした。

戦争で多くの犠牲を払った世代、それは、私共ではなかったか。その後遺症は死ぬまで背負って行かねばなら

山収容所である。ここでの悲惨さは……
右は、五五年自費出版した鎮魂譜の一部分であります。

しかしこの有り余る程の食糧も大半は外国からの輸入に頼っているのです。GNP世界一位の日本が、大半を外国の農産物に依存しているとしたら、食糧の安全保障は誠に

我が家の玄関には、後輩が愛情をこめて育てあげたシクラメンが見事な花をつけ咲き誇っています。十数本のピンクの花、すばらしくきれいでいとおしく愛着を感じます。誰かが暖かい手で包んでくれていて、それでいいと思ひ出があれ

企画立案の農業

昭和十九年卒
南高農協組合長 島 田 一

日本農業をめぐる環境は、今後ますます厳しさを増すに違いない、六十二年産米の生産者米価が三十一一年ぶりに引

豆を確立した生産性の高いモデル集団がいくつもあ

戦後で多くの犠牲を払った世代、それは、私共ではなかったか。その後遺症は死ぬまで背負って行かねばなら

朝鮮の古茂山駅の貨車の中にいた。……
駅の南方約二軒の地点に収容所があつた。それが古茂

日本の農業は外国からの安農産物に押され、日本の農家はほとんど作る意欲を失な競争も出来ない。

我が家の玄関には、後輩が愛情をこめて育てあげたシクラメンが見事な花をつけ咲き誇っています。十数本のピンクの花、すばらしくきれいでいとおしく愛着を感じます。誰かが暖かい手で包んでくれていて、それでいいと思ひ出があれ

新しい生活がスタートしました。クラス対抗のバレーボール、ソフトボール大会などある度朝早く、そして放課後の落ちるまで練習したあの頃、皆一人一人が生きたとした姿で活気にあふれ充実した毎日でした。弁池までのマラソン大会の時など地下たびを

研修旅行に参加して

赤城試験センターは、農業でしたが、とても有意義な研究近代化の実験場として昭和三十九年に設置されたそうです。見学した野菜工場では、太陽の光と安い深夜電力を活用しコンピュータで野菜の育つ環境を自動調節する新しい野菜します。



生徒会顧問 橋本真司

生徒会活動は会長の賀川賢一君をはじめ十六名の役員と顧問が力を合わせて、多くの行事を運営してまいりました。わたしは顧問になって最初の年であり未知の事がずいぶんと多かったわけですが、先生方のアドバイスを受け、生徒たちに助けられながら何とかここまでやってまいりました。

行事をふり返ってみますと、一学期は部活動紹介、常任委員会、生徒総会、映画会、野球の応援、二学期は体育祭、学校祭などがありました。

部活動紹介では各部長が新入生を前に自分の部の紹介をするわけですが、部活動加入状況が今一つの状態ですので各部とも工夫して新入生を引き付けようと努力している様

一年を振り返って

農業クラブ顧問
小林 浩行

本校の農業クラブ活動は、本年度も会長の野沢裕治君他十六名の役員と顧問が一丸となって多くの行事や各種大会を運営してまいりました。

「充実した農く活動」を合言葉に種々の活動を行ってきたわけですが、活動を通して役員の生徒の責任感や、能力、資質がすばらしく向上しているのを感じるにつけ、大変うれしく思っております。

本年度もクラブ員の自主的参加による活動の活発化」を目的し、多くの行事を行ってきました。意見発表会、家畜審査競技会、鑑定競技会、平板測量競技会、プロジェクト発表会等、選手になった生徒達は、顧問の先生方の指導のもと、精一杯頑張ってくれました。その結果、本年度もプロジェクト発表で、二部門が関東大会に出場する事ができました。農業経営の部で、「地域に根ざしたメロン作りで市村廣子さん他七名」、「低食塩化漬物の製造に関する研究」で橋本清忠君他九名の生徒が堂々と発表して優秀賞に輝きました。

なお、本年度の第三十八回関東大会は、本県を会場として開催されました。那須農業

家庭クラブ顧問
市村恵子

高校が事務局で県内十校の顧問が協力し合つて、二年近くの準備期間中、何度も何度も会合し、打合せやりハ―サルを行つてきました。そして八月二十六、二十七日の両日にわたつて「若人が 未来をつくる 農業クラブ」「那須野ヶ原に 若人はばたく農くの輪」の下、クラブ員や顧問の先生方一千名以上をお迎えして、盛大かつ厳肅に行われました。参加した方々全員が、深い感銘と充実した気持ちで帰られたと思つております。本校の役員十七名も、受付け接待、又県連旗手として参加し、立派にその責を果たしました。又、ブラスバンド部員三十五名も大会式典とレクリエーションに参加して、立派な演奏を披露し拍手を浴びました。

最後になりますが、本年度は創立八十周年の記念すべき年でもあり、学校祭で記念館に過去十年間の農く活動の記録を展示しました。全国大会最優秀賞三つのトロフィ、賞状があり、他にも多くの賞状、トロフィーを見るにつけて、本校農業クラブ活動の充実、活躍ぶりを、多くの方々に実感していただけたのではと思つております。これも一重に真農高の先輩方や顧問の先生方の努力の賜と深く感謝申し上げます。

農業科三年 野澤裕治

た。この研究は、まだまだ完全なものではありませんが、制服を考えるきっかけになれば幸いです。時代にあい、環境的で、しかも本校にはこりをもって生活できるように継続研究していくつもりです。

今後の活動をより活発にしていくなには、その年の役員のカラーを出し、年間行事を見直すとともに、長期休業などにも利用していく姿勢を大切に全員参加をめざしていかなければと思います。

草木の芽が力一杯顔を出し生長して、やがて美しい花を咲かせ、枯れて大地へ返る。私達高校生はいうならば、やがて美しい花を咲かせようという状態です。今の努力が大変必要な時でもあります。咲かせる花へ色は人様々ですが、私は真岡農業高校に学ぶ者として、これからの農業に望みを託し三年間いろいろなことについて勉強してきました。

「売ります」という看板。サビたまに放置されたトラクタ等。大農場の屍に強烈な衝撃を受けました。世界一を誇るアメリカの農場が危機に直面していることは、私にとって大きな驚きでした。しかし、直接農場主に話しを聞く機会がなくとても残念でした。二週間という短期間の研修ではありましたが、私なりに何かを見つけ出すことが出来たと思います。

一九八七年、輝かしい歴史と伝統を誇る本校創立八十周年の記念事業も大きな成果を挙げた記念すべき年であった。この蔭には同窓会、PTA、

職職員各関係者の母校愛に燃える並々ならぬ努力を忘れることはできない。明けて一九八八年、新たな歴史づくりの元年と受けとめ創立九十年史に百周年へ向け本校の限りなき発展のため一層の精進努力を願って止まない。いみじくも本年の干支は「竜年」で、かく広い大空をめがけて舞い上る昇天の飛竜のごとき勢いで古い歴史の中にも若き力を結集して本校発展のための強力な第一歩の年にしたい。各位の一層のご協力を賜りたく。

貴重な原稿をお寄せくださりましてありがとうございます。編纂子一同